

MBC ラジオ『ココが聞きたい！ドクタートーク』2024.10.5

第 1118 回放送分『眼科疾患』1 回目

ゲスト：土居範仁ドクター



二見いすず

今月のドクタートークは、「眼科疾患」をテーマにお送りいたします。
お話は、鹿児島県医師会 土居範仁（どい のりひと）ドクターです。
土居さん、どうぞよろしくお願いいたします。

土居範仁Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

早速ですが、今週は何についてお話いただけますか。

土居範仁Dr.

はい、今月は「眼科疾患」の中で特に”アイフレイル“に関連した疾患のお話をさせていただきます。

二見いすず

アイフレイルですね。「フレイル」という言葉は、よく見かけたりするようになりました。

土居範仁Dr.

そうですね。フレイルとは病気ではないものの、年齢とともに筋力や心身の活力が低下し、“健康な状態”と“介護が必要な状態”との間を指し、虚弱な状態とも言い換えることができます。

二見いすず

その「アイ」、つまり目のフレイルのことがアイフレイルという認識でよろしいでしょうか？

土居範仁Dr.

はい、おっしゃるとおりです。まだ、治療が必要な段階ではありませんが、目の老化が起こってきている状態を指します。

60歳を過ぎたところから多くの方が目のおとろえを感じるのではないのでしょうか。

アイフレイルの中でも最初にくるのが老視、一般には老眼と呼ばれる状態です。

これは60歳を待たずに早い人では、40代半ば頃から症状が出る方がいらっしゃいます。

二見いすず

新聞やスマホの文字を読むとき、これまでの距離だと見えにくく、目から離して読むようになると、「あれ？老眼かな」と認識する人も多いと思いますが、だいたい何cmくらい離してピントが合うと、老眼なのでしょうかな？

土居範仁Dr.

目のピントが合う場所が30cmを越えると、日常生活で近くが見えづらいと実感し、老眼とよばれるようになります。

それが40歳になると約20cm、45歳になると30cmくらいになり、このころになると老眼を自覚するようになりますね。

60歳を越えると、100cm、1メートルにもなります。

二見いすず

そんなに変わるんですね。

そもそも人はどうして老眼になるのでしょうか？

土居範仁Dr.

簡単に説明しますと、ピントをあわせる力が無くなってからです。

テレビやインターネットでは改善させる薬やピントを合わせる力を鍛える方法などが多く取り上げられていますが、はっきりした根拠はなく、残念ながら誰しものが老眼になってしまい近くを見るのに老眼鏡が必要になります。

アイフレイルの中には、ほかにも白内障や緑内障、加齢黄斑変性など治療を必要とするより深刻な疾患の初期の状態が含まれます。

これらについては来週以降お伝えいたします。

二見いすず

分かりました。

今月は、「眼科疾患」をテーマにお送りいたします。

お話は、鹿児島県医師会 土居範仁ドクターでした。

土居さん、ありがとうございました。

土居範仁Dr.

ありがとうございました。